

矢筈岳(やはずだけ) 480m(476m 四等)

ルート図



平床農村公園から矢筈岳遠望



平床公民館(旧平床分校)と水神様



百貫様(春日社)



H23.12.11 会員等 15 名参加 (天草山岳会)

1 号車-K、Kh+1

2 号車-T

3 号車-K

4 号車-K

5 号車-S+Y

6 号車-T+2

7 号車-O+2

8 号車-N

■12/11 曇 8:30 平床農村公園, 9:00 受付 300 円, 9:30 出発, 9:35 水神様, 9:50 ぜんざい接待, 10:05 百貫様, 10:15 百貫の滝, 10:30 林道, 10:58 舗装道から林道へ, 11:15 山道へ, 11:30 前衛ピーク, 12:00 矢筈岳観音堂・山頂で写真, 12:15 駐車場で豚汁接待・弁当, 12:35 出発, 13:00 栗園, 13:30 ゴール, 13:50 不動の滝, 14:00 解散

■本町公民館が平床地区で開催する「矢筈岳さわやか登山」に参加した。本町平床農村公園へ各人集合する。会員及び関係者で 12 名になる。参加者はおよそ 200 名だ。天気は薄曇り、昨晚小雨が降ったせいで地面は少し濡れており寒くもない。開会式のあとスタンプラリーの台紙を片手に歩き始めた。

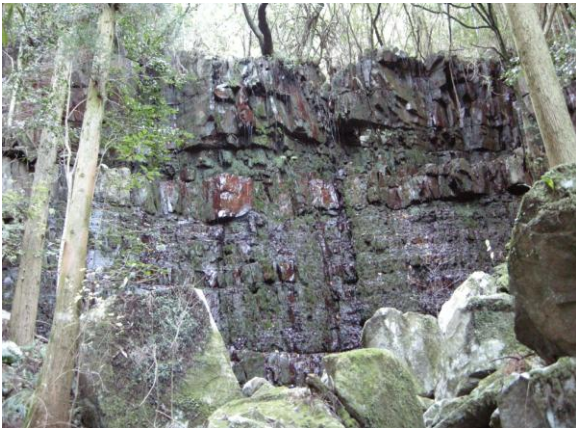
県道本渡苓北線に沿って右側に平床地区の民家が続きキラカンサスの赤い実が目をつく。左側は田圃と平床川を見ながら最初のスタンプポイント水神様に着いた。すぐそばに平床公民館がある。この公民館は昭和 61 年まで本町小学校平床分校として一年から三年生が在籍した。

県道と別れ松の塚川に沿って歩くと民家でぜんざいの接待があった。「百貫様登山口」標識から川に架かる丸木橋を渡り杉林のなかを登る。やがて左側に高さ約 5-6m の第一滝が水音をたてている。水平道から「春日社」と書かれた鳥居をくぐる。杉林の中は一面に岩がゴロゴロと転がり、やがて「百貫様」と呼ばれる大岩に着いた。尺貫法で百貫は 375kg だから重さのことではなく非常に目方の重いことのとえか百貫文即ち米百石の嵩か。

シマバライチゴ



百貫の滝(第二滝)



ツチトリモチ(2010)



矢筈岳山頂



百貫様から少し登った所にシマバライチゴの群生地がある。シマバライチゴは本町や有明町に群生地があり私の子供のころは山野に普通に見受けられ、食べると酸っぱい味がする。シマバライチゴは明治37年植物研究家の大島清氏が発見し牧野富太郎博士が命名したとされるバラ科の希少植物で、国内では長崎県と熊本県に自生地がある。長崎県では天然記念物として保護され、環境省のレッドリスト絶滅危惧(Ⅱ類)に指定されている。

岩がゴロゴロする河原を登ると「百貫の滝」(第二滝)がある。水平方向に広がる地層が茶色く光り水量は少ないが落ち口から滝壺までの高さは約10mで圧倒される。百貫の滝から左の谷を登り林道に出て右折し、百貫の滝の上を通る。この下流に「第三滝」が有る。

林道から舗装道路を左折、すぐ右折して再び林道に入る。途中から檜林の中の山道に入る。稜線に出てこのコースの最高峰「仮称松坂山 482m ピーク」を通り広葉樹林に囲まれた快適な登山道が続く。路傍の枯れ木の周りにツチトリモチが群生していた。これほどたくさんのツチトリモチは初めて見た。ツチトリモチはクロキなどの根に寄生する寄生植物とされ地上に花序だけを出す。地下茎をすりつぶして「とりもち」として鳥を捕獲した。

いったん鞍部へ下り、急坂を登りつめて矢筈岳観音堂に着いた。背後の最高点に登ると富岡半島と天草灘、その先に長崎半島野母崎を遠望する。

地形図に示されている四等三角点 476m は北側へ稜線をいったん下り次のピークの山頂にある。矢筈岳の名称由来は弓道で弓矢の矢羽根を「矢筈」と呼ぶことに由来し、富岡往還の茶屋峠付近から見た山容がこの形状と似ていることからきていると考えられる。矢筈岳は天草には五山が数えられる。山頂で三人組みの青年に会った。去年も会ったので天草山岳会を紹介した。



矢筈岳山頂から富岡半島と天草灘(2010)



フユノハナワラビ



不動の滝



マツザカシダ



矢筈岳を下り駐車場で豚汁を頂き弁当を食べる。車道と里道を歩き栗園まで下る。Tさんが「これはフユノハナワラビです。」と教えて下さった。見ると路肩の所々に緑色と褐色をした植物が伸びている。フユノハナワラビは日本全国に分布するハナヤスリ科の冬緑性シダ植物でヨモギに似た葉とワラビに似た胞子葉からなる。ヒガンバナやタンポポなどと同じく日当たりが良く人が時々下草刈りをするような場所を好み人間活動に関係する人里の植物とされる。栗園でスタンプを押し里道を通り車道を下る。県道まで下りたところに平床公民館がある。

車道を歩き平床農村公園でゴールした。時間があるので「不動の滝」を見に行く。急傾斜地の工事の為以前と登り口が違っていたがコンクリートの階段を登り、とても大きな孟宗竹の奥に「不動の滝」はあった。落ち口から滝壺までの高さはおおよそ 20m 水平に地層を重ねた堆積岩の岩壁でその左側に不動様が祀られていた。

不動の滝の近くでTさんが「これはマツザカシダです。」と教えて下さった。葉茎の先端に三枚の葉が付き中央の葉が長いのが特徴。マツザカシダはイノモトソウ科の常緑多年性シダ植物で九州中国四国地方では林内や溪流の近くに見られるが沖縄や近畿地方以北では希少植物としている県が多い。不動の滝を下りて現地解散となり各人散会した。

余談だが矢筈岳観音堂には私の父の父の名前を刻んだ石碑が建っている。このことから矢筈岳は近隣村民共通の信仰対象だったことがうかがえる。当時は山越えをして参拝し賑わったことだろう。

[参考文献]

①シマバライチゴ、ツチトリモチ、フユノハナワラビ、マツザカシダの解説は HP データを参考とした。

②天草山岳会 観海アルプス№2